

浄土

三月号



法然上人鑽仰会



聖観音のみ手

奈良 薬師寺

掌

光リカガヤク掌ニ

金ノ仏ゾオハスナレ

光リカガヤク掌ニ

ハット思ヘバ仏ナシ

光リカガヤク掌ヲ

ウチカヘシテゾ日モスガラ

△白金ノ独楽V

白秋

さと思ったその瞬間に、真実のさとりはどこかに飛び去っている。これぞみ仏に接しえたと思ったときには、み仏はそこにはおられない。しかし、み仏はやはりおられるのである。傷ついた白秋が大きな転機を迎えてものした詩がこれである。凡人のわたくしたちにはあまりにもはつきりした答えを示してくれている詩でもある。それにつけても、薬師寺の聖観音のみ手のなんとまろやかなことであろう。軽快でありながらも、決して物を落すこともなさそうな力強さを秘めている。菩薩の願いを示すみ手にふさわしい。つかんだぞと執着する凡人の手とはまさに天地の差というべきであろう。聖観音が若々しく、しかもすがすがしい毅然としたみ仏であるだけに、余計に拝む者にかろやかなみ手が光り輝いて見えてくるようである。世界をすっぱり包んでもなにげない菩薩の誓いのみ手である。

(石上 善応)



かならず専修念仏は、
現当のいのりと成候也。
これも経の説にて候也。

法然上人御法語

— 目 次 —

表紙「飛天」松濤達文画

随想	井原文雄・牧田みち子・鈴木俊善	(2)
彼岸に寄せて 彼岸へ前進	野島 宣道	(4)
特集 御門主を迎えた大法要		(6)
敬称と「元祖さま」	小橋 麟瑞	(10)
— . — . — . — . — . — . —		
浄土 人生は尊い	藤井 実応	(12)
信仰問答 仏教人生訓 TPOに勝つ自信	宝田 正道	(12)
浄土のこよみ	大橋 俊雄	(20)
— . — . — . — . — . — . —		
お経の話 悪世における救い	村瀬 秀雄	(22)
高僧の一面 末娘を思う親鸞の苦悩	鈴木 成元	(26)
読者の声 私の願い		(14)
テレビ再録 ある人生		(18)
浄土名作シリーズ		

懺悔随録

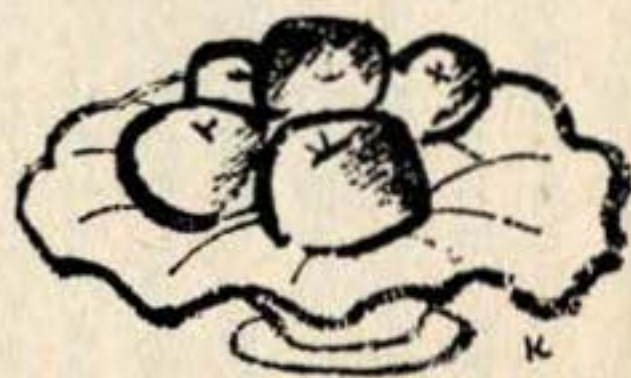
井原 文雄

このお寺が焼けて、今日で、まる三年目を迎えました。

火の手のまわるのは、おそろしく早いものであります。三百

彼岸へ前進

野島 宣道



ふとした法縁で、赤尾の道宗と題する一本をいただくことが出来ました。世には妙好人と呼ばれる人が、随分、昔から居られます。そして、それ等の妙好人の伝記を書いた本もたくさんあります。それらの本は、妙好人伝と申されていますが、その妙好人伝を披ひらきますと、大抵の本にこの道宗という人の名を見出すことが出来るのであります。

さて、その妙好人とはどんな人のことをいうのであるかといえ、ある種の浮世ばなれをした善良さがつきまとうていような人のことでありますが、この道宗という人はそういう型の人でもないようであります。私は、私の話をいつもよく聴きに來て下さる一老婦人があって、或時、この道宗さんの信仰ぶりを話したところ、その老婦人が、私は道宗みちむねスギと

申します、今のお話の道宗さんは私の先祖で、一族がこの道宗さんの法名をもらって、道宗と名乗っております、と、いうことでありましたので、それはふしぎな御縁ですと、いろいろ話しましたところ、道宗さんのことを書いた書物があるということ、其後その御本を貸していただき、よく読ませてもらって、妙好人道宗は、ただ浮世ばなれのした、善良さを身につ

特集

御門主迎えた
大法要

—読売ランド—



話は、庭を埋めた聴衆に大きな感銘を与えたに違いない。やがて、その前にしつらえられた大正大学茶道部の献茶式が、静かに幕を切って落された。二人の日本衣裳に着飾った女子学生は、日頃の腕をここに見せつつ、心からな献茶をした。そして、御門主や、正力社主には、更に野点てによって、抹茶が供養された。

陽光は燦として、四域を照らし、成人式に着飾った青年

聖地にて

黒田 隆

(大正大学音楽部主任)

男女の静かなさやきが、四囲を取りまく。それは、一つの絵巻きものでもあった。ここに、仏陀の教えがあり、まどいがあり、そして、平和がある。御門主を迎えた読売ランドの一日は、いやが上にも有難く、そして楽しげであり、極楽のようであった。



一月十五日、我々大正大学音楽部は、読売ランド仏舍利殿での月例法要に合唱団として参加した。新宿から三十分、小田急読売ランド駅

に下車したのは、もう十一時半頃であつたろう



にしてはいたが、今回は読売ランドというイメージもあった、みんな、かなり気楽に立向っている様子であった。しかし音楽には油断を与えられない。控室に通され安居先生の連絡があるまで、寸時

私の少年時代に法然上人に対する敬称「元祖さま」は何よりも親近感をもって臨んだものでした。これは今でも変わってはいません。

それは、その頃 御忌（ぎよき）の法要にしても、春秋のひがん、十夜の法要にしても、知名の布教師の方々が一週間なり十日間の昼夜二回の説教に、必ず出てくる祖徳鑽仰のお話の都度「元祖さま」という敬称で法然上人の偉大なるお人柄の叙述があつたから

人生は尊い

藤井実応

的にものごとを考えてゆかれるようにそれは誠に結構なことだと思います。それは今、あなたに与えられた問題として、早急に解決しようと思わず、その問題をもちつづけて、理論だけでなく

(お経の話) その三

― 阿弥陀経下 ―

悪世における救い

村 瀬 秀 雄

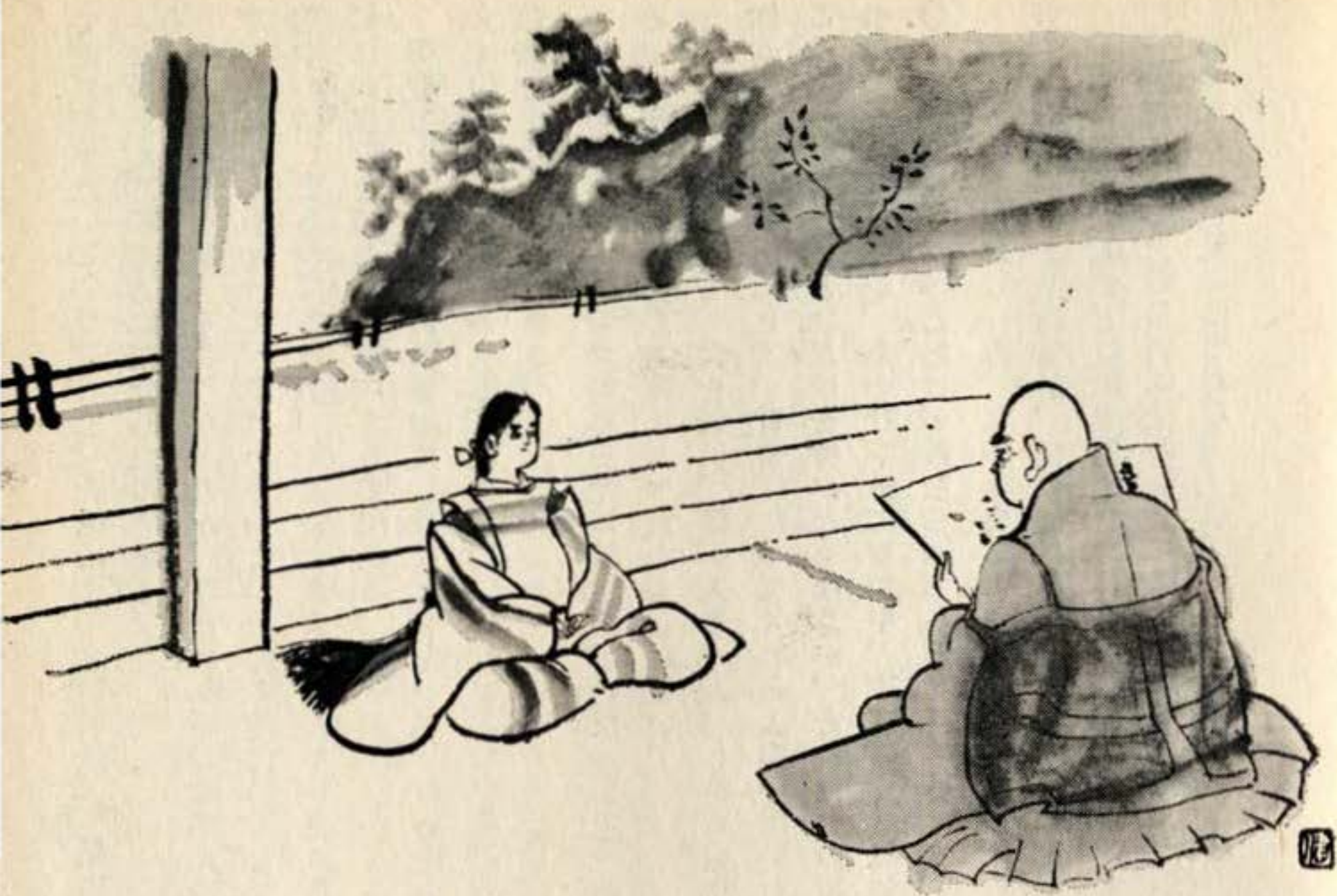
一、お念仏と現在の利益

絵	連
話	続

みんなの法然さま

——比叡山へ——

高橋良和



十日はかかったかもしれない。

母の手紙をふところにして、一足一足ふみしめる足は、この子供、すなわち勢至丸にとって重かったにちがいないのである

合掌のこころ



